



校長室だより

校長 菅原 定志

あいさつ

3ヶ月ぶりの校長室だよりとなってしまいました。大変申し訳ございません。

さて、私が本校に赴任して、1年9ヶ月が経とうとしています。今、私が感じるうれしいことの一つに、生徒の「あいさつ」が格段に良くなったことがあげられます。笑顔と相手に聞こえる声で「おはようございます」「こんにちは」の声が校内で響いています。赴任当時も「あいさつ」の声は聞かれましたが、現在のほうが断然素晴らしいと感じています。マスク越しの「あいさつ」ですので、なかなか相手に聞こえにくい状態ではありますが、ほとんどの生徒は、しっかりとした「あいさつ」ができています。来校されたお客様からも、生徒の「あいさつ」を褒めていただくことが多くなりました。校長としては、何よりうれしいことです。私たち教職員も、生徒に負けないように明るい「あいさつ」を心掛けねばと思っています。

『あいさつが 大峠山に こだまする』を具現化しようと、生徒会では、毎朝校門付近で「あいさつ運動」を行っています。夏の暑い日も、冬の寒い日も交替で「あいさつ運動」に取り組んでいる生徒たちには頭が下がります。私も、登校指導を終了し校内に入ったときには、「あいさつ運動」をしている皆さんに、「おはようございます」と大きな声で「あいさつ」するように心掛けています。生徒たちの毎日の積み重ねが、実を結んだのだと思っています。この「あいさつ」は今後も伝統として継続していってもらいたいと願っています。



【校門前でのあいさつ運動】

私は、「あいさつ」はしなさいと言われてするものではないと思っています。自然に出てくるものだと思います。「あいさつ」する習慣が身に付いているか、「あいさつ」することを幼少時から教えられてきたかにかかっているのだと思います。社会に出たとき、「あいさつ」をするのは当たりまえであり最低条件です。時には「あいさつもできないのか」と言われることもあります。その時、「あいさつ」の大切さを感じたとしても、取り返しがつかないことになることもあるようです。

いよいよ受験シーズンとなり、私も面接官役となって、生徒の面接練習に参加する時期となりました。毎年生徒は緊張しながら面接練習に取り組んでいます。入室時には「失礼します」、質問の回答をするときは「はい、・・・です」、退出するときは「ありがとうございました」「失礼しました」など、普段はあまり使わない「あいさつ」をする場面が増えます。しかし、毎日「おはようございます」「こんにちは」と「あいさつ」できる生徒は、面接の場面でもしっかり「あいさつ」ができています。日頃の「あいさつ」の大切さを感じます。